

夢の設計図

やりたい仕事や実現したい夢 **国家公務員**
 その仕事や夢を選んだ理由 **災害の多い日本の国民を救い、日本の防災技術を世界に広めたい。**

その仕事や夢を実現するために必要な条件(資格など)や力、お金はなんだろう
国家公務員総合職試験に受かるための学力、英語や中国語の語学、学費、しゅく代

年齢	必要な能力を身につけるためにやること
12歳 小学校	合宿などでチームワークを学ぶ、日本各地の郷土資料館へ行く、英語と中国語検定の勉強、留学する。
13歳 15歳 中学校	中学校入学、全ての教科書が得意になるように勉強する、英検2級まで取得、留学する。
16歳 18歳 高校	高校入学、日本史や地理などの勉強をかたばる、英検1級まで取得、受験勉強、留学する。
19歳 大学	東京大学入学、短期留学もする。 法学部にて勉強、国家公務員総合職試験の勉強。
22歳	国家公務員総合職試験に合格!
23歳 仕事	国土交通省に入省。
25歳	上司について、仕事を学ぶ。
35歳	災害が起きそうなところを整えていく。
40歳	部を持ち、リーダーとして外国へ技術者を伝えに行く。

仕事以外であなたが大人になったらやってみたいこと、実現したいこと
恐竜博士になることも夢なので、恐竜博物館や化石発掘などはまだ発売するのはおもしろいこと、野口英世や沢村栄一のように大人になっても留学したい。

世界に貢献する日本の防災技術

筑波大学附属小学校 五年 長谷川 晴一

「ミャンマーで地震だつて、大丈夫かな。」ぼくは、二〇二五年三月のある日、ニュースをみていてびっくりした。ぼくの学校で、日本に勉強に来ていた留学生との交流のチャンスがある。ミャンマーや台湾などから来た外国人の学生と英語や中国語で会話を楽しんだりできる。六歳から英語と中国語を学んできてよかったと思った。そしてとても有意義な時間だった。そのミャンマーの留学生の故郷が大変なことになっている。遠い国の話とは思えずに身震いした。日本の防震技術が広まっていたらこんなに崩れていなかっただろうか。東日本大震災の時は、津波の被害はとて大変だったが建物はここまで崩れていなかったと教わった。ぼくは、学校で勉強した関東大震災を思い出した。あの時はほとんどの建物がかずれ、火事も広がり焼野原になった。その後、ぼくがあげられているかつて内務

大臣であった後藤新平が、単なる復興計画だけでなく、防災対策や耐震技術を発達させ、未来を考え東京の都市自体を大改革したらしい。だから東日本大震災は建物が崩れる被害が少なかったのだろうか。今年休みに家族で宮城旅行へ行つた時、震災遺構である仙台市立旧荒浜小学校に行つて学んだ。そこは、広くきれいな土地の中には、家がたたずんでいた。学校の周りには、家があるのがふつうだと思つた。中を見学させてもらうとぼくは、足がすくんだ。なぜなら一階の教室に入るとかべがぼろぼろ、天井もはがれ落ち、窓ガラスもない状態だった。二階の教室にまで津波が来たらしい。資料によるとやはり家は流されたそうだ。津波が引いた後の写真は、学校の周りががれきりうもれていた。しかし今は農作物を育てられる状態になっている。

日本は、何度災害にあつても立ち上がり、次の対策を考えることができる素晴らしい国である。ここでの復興や減災活動に関わってきた内閣府や防衛省、国土交通省などの人たちはやはりぼくのあこがれである。僕の夢は、国家公務員として国土交通省に勤め、災害が多い日本の国民を守ることだ。最近、留学生と交流の経験を通して日本の国民だけでなく世界の人々も守りたいという気持ちも強くなった。その夢をかなえるためには、大学に入学し国家公務員総合職試験に合格する必要がある。世界へ日本の技術を伝えるために、語学力も大切である。両親に頼んで留学させてもらう予定だ。日本の防震技術はもちろん、災害の後の復興スピード力や洪水や津波被害の対策など世界に広め、世界で災害に悩む人々も救うためにこれからもぼくは、国内外問わず広い視野で多くのことを経験し学んでいきたい。

*こちらは、小学生『夢をかなえる』作文コンクールの「ライフプランシート」としても使えます。